

実践事例と分析

実践事例 1 「俳句」実施学年 3 学年

1 本単元の「ものがたり」の授業構想図

『ものがたり』の授業

★授業者のねがい（授業を通して生徒に期待する成長や変容）

言葉に注目して俳句を読んだり創作したりすることで、自分の考えを級友と夢中になって語り合う姿が見たい。

●題材（俳句）に対する「ものがたり」の変容

（学習前）

五・七・五で書かれた詩。言葉が少ないので思いを直接的に書いたほうが伝わる。

探究的な学び
他者と語り合う

（学習後）

俳句は言葉が少なくてもいろいろなことが表現できる。少し工夫するだけで読み手にストーリーを想像させることができる。

《（授業者が考えた）単元学習後の「振り返り」例》 *「自己に引きつけた語り」部分
私は最初、俳句は「五 七 五」の少ない音数で表現されているすごいものと思っていた。簡単そうだけど、自分が作ろうと思うとすごく難しくて苦戦した。特に季語が思いつかなかった。言葉が少ないから、直接的な表現を使って作るほうがいいと思っていた。
今回、俳句について詳しく学んだことで場面を想像したり、表現技法の効果に気づけたりした。それに、一番の発見だったのが、俳句にもストーリーがあるということだ。小説や短歌からは時間の流れを考えたり、想像したりすることができた。でも俳句はその一場面を切り取っていると思っていたが、俳句でも時間の流れや関係性などを表現することができると分かって面白かった。言葉が少ない分、言葉一つ一つがもつ役割が大きくて、言葉ってすごい！と思った。特に「季語」の役割は大きくて、今まで季節を表すだけだと思っていたが、「季語」によって明るい俳句に思えたり、暗い俳句になったりして驚いた。ちょっと言葉を変えるだけで全然違う印象になる俳句もあるので、自分が俳句を作ったときもしっかり考えて、言葉を選んで作ることができたと思う。言葉を大切にしていきたいと思う。

2 本単元で育成する資質・能力

知 識 技 能	・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、俳句を鑑賞することを通して、五感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○言葉そのものをしっかり認識するだけでなく、その言葉がもつイメージや表現技法の効果などについて考え、考えたことを発表したり記述したりできる。
--------------------	--	---

思考力 判断力 表現力 等	・文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。 ・俳句の構成や表現の仕方について評価することができる。	○言葉から受け取るイメージや言葉選びの意図などに思いを馳せることができる。 ○構成や表現に着目して、俳句を批評することができる。
学びに向かう力 人間性 等	・言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。	○俳句の鑑賞から、自分の読みを形成し、根拠をもって友人に語ろうとする。 ○俳句に親しみをもち、鑑賞したり創作したりしようとする。

3 単元構成と学習課題（本時5時間／全6時間）

時間	学習課題	学習内容
1	恋の俳句を作ろう！	「恋」をテーマに俳句を作る。その際、イメージマップを用いて、発想を広げていく。
2	俳句を鑑賞するとは？	俳句の鑑賞の仕方について学ぶ。「切れ字」や「取り合わせ」など、学んだことを使って俳句を作る。
3 4	俳句の魅力を伝えよう。	前時に鑑賞した俳句から1句選び、鑑賞文を書く。「表現の工夫」「内容」の2つの視点で鑑賞し、意見交換する。
5 (本時)	優れていると思う1句は？	4句の俳句に順位をつけて、審査する。俳句に詠み込まれた心情や情景を想像して、語り合う。
6	3年〇組で句会を開こう。	今まで学んできたことを生かして句会を開く。学級で審査を行い、最優秀句を決める。

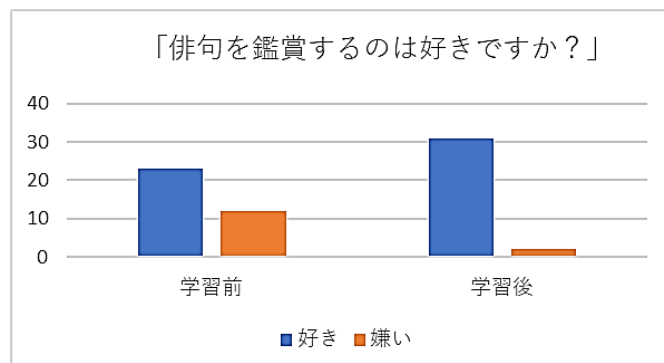
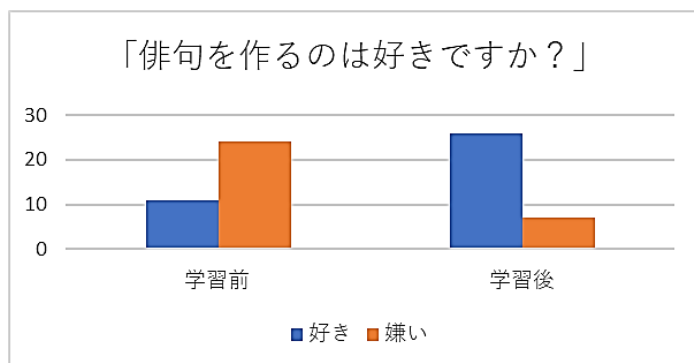
研究の分析

(1) 「遊び」を通して言葉や読み方を捉え直す単元構成の在り方

○ 本単元では、宇多津町主催の「令和相聞歌」に応募するために「恋」をテーマに俳句を作ることを単元のゴールに設定し、意欲喚起を行った。応募するために作品を作ることは、ただ「俳句」を学習することとは異なり、「入賞したい」という生徒の思いを生むことに効果的であると考え、これを、単元を貫く「遊び」とした。また、「恋」の俳句を創作することも「遊び」の概念を取り入れている。「恋」の俳句を創作するために、イメージマップを書くことで、生徒は楽しみながら発想を広げていった。友人がどんなことを書いているか覗いたり、書いたことを語り合ったりする姿が自然に生まれたのも、テーマ設定によるものが大きいと感じている。

また、1時間目に創作活動を行うことで、生徒は俳句作りの難しさを体感した。そこで、プロの俳人の表現を鑑賞したいという生徒の思いが生まれ、鑑賞活動への動機付けになったと考えている。また、鑑賞で学んだことが創作活動に生かせるように、学んだことを使って毎時間1句は創作して提出するようにした。最初は創作に苦手意識をもっていた生徒も数をこなしていくことで、創作へのハードルが低くなり、複数句創作する生徒も出てきた。その中で、生徒から「もっと創作の時間を取ってほしい」という意見が出ることもあり、意欲的に活動に取り組む姿が見られた。

実際、授業前と授業後のアンケートを比較すると、「俳句を作るのは好きですか？」
「俳句を鑑賞するのは好きですか？」という同じ質問に対して、以下のような変化が見られた。



「俳句を作るのは好きですか？」の質問では、学習前「好き」と回答した生徒が 11 名（ $n=35$ ）だったのに対し、学習後「好き」と回答した生徒は 26 名と増加した。「俳句を鑑賞するのは好きですか？」という質問でも、「好き」と回答した生徒が 23 名から 31 名に増加した。学習前は、俳句を作ることに対して「キレイに作らないといけないし、難しい」という記述が複数見られたが、学習後は「うまくできなくても直していけばいいし、自由に作ることができる」という記述が見られるようになった。

更に、「俳句について学習前の自分と学習後の自分で変わったことはありますか？」という質問に対して、全員が「はい」と回答した。このことから、本単元を通して生徒の俳句作りや俳句の鑑賞についての考え方が変容していることが分かる。

- 鑑賞を通して学んだ技術を自分の俳句に生かそうとする生徒が多くいた一方で、自分の俳句に固執してしまい、最初の俳句から変更できずにいた生徒もいた。最初の俳句が一番素晴らしいと考え、自分の作品として提出するのは悪いことではないが、他の俳句と比べたり、表現を工夫したりする姿がなければ、本当に考えて選んだ作品としての俳句かどうか、評価が難しいと感じた。また、変容が見られないということは、自分の俳句にこだわりをもっているということもできるが、「もっとこうしたい」という意欲が喚起できなかったとも言える。そこで次年度は、生徒同士で相互評価をする時間を設ける。自分の俳句で表現したいことが相手に伝わっていないという「できない」を経験させることで「もっとこうしたい」を生み出せるのではないかと考えている。生徒にこのような情意面の変化が見られない場合、言葉や読み方の捉え直しも難しいと感じた。やはり、情意面に働きかけ夢中になって学習する場を設定することは有効であり、言葉や読み方へのこだわりを生むためには情意が動く場を設定しなければならないと感じた。しかし、それでも創作物に変化がない生徒がいた場合、なぜこの俳句を作品として選んだのかを書かせたり、語らせたりする場を設定することで、生徒の思考を視覚化し評価していきたいと考えている。

（２） 学びの深まりを実感する「遊び」を取り入れた言語活動の工夫

- 5 時間目（研究授業）では、審査員になって 4 つの俳句を審査する活動を行った。審査員という役割を与える「遊び」を通して、4 つの俳句を比較して語り合う生徒の姿があった。また、補助発問として、「最下位の俳句はどこがダメなのか？」と問うことで、生徒の俳句に対する読みの変容をねらった。
- 「恋ふたつ レモンはうまく 切れません」の「レモン」とい季語に注目して、「レモン」以外でどんなものが季語にできそうか考えた。この活動で季語によって印象が大きく変わることを実感できた。「レモン」と他の季語を比較することを「遊び」の中で行い、作者が「レモン」を選んだ意味を考えさせた。活動自体の盛り上がりはあったが、感性的な理解になる面もあったり、十分な吟味の時間がとれなかったりしたという課題もあった。
- 5 時間目（研究授業）では、語り合うことはできていたが、「視点」が定まっていなかったため、それぞれが自分の意見を伝えることに終始してしまった。今まで学んできたことから、「優れ

ている俳句」とは何かをしっかりと確認し合い、共通認識をもった上で評価することが必要であった。次年度は、「優れた俳句の条件とは？」という問いを投げかけ、皆が視点をしっかりとって語り合うことで、俳句に対する学びを深めたいと考えている。また、4つの俳句は授業者が選んだものだが、精選が必要であると感じた。生徒に何を考えさせたいか、4つの俳句を選んだ意図がしっかりとないと学びの深まりには到達しないことが分かった。

- 教師のファシリテート力が必要だと感じた。〈研究授業の実際〉のように、生徒の思考を分断したり、深まりそうな語りを拾えなかったりした場面がいくつもあり、反省が残った。一部の生徒の発言を拾うことで授業が展開していったため、生徒が語りたい問いの再設定になっているか、教室全体が語り合っているかをしっかりと確認しながらファシリテートしていく必要があった。また、書く活動がなくすぐに語る活動に移ったため、ついていけない生徒がいた。考えをしっかりとまとめる時間を作って語らせるという基本を大切にしたい。
- 鑑賞については語り合う場面を毎回設定することができたが、創作についても語り合う場面の設定が必要だと感じた。例えば、(3)の抽出生徒Bのように心情を表現しない生徒は級友とのやりとりからヒントを得たり心情が動いたりする可能性があると考え。自分一人で作品を作る中で心情が表出する生徒は多くはない。級友からの指摘や賞賛によって、心情が表出するのではないかと改めて感じたため、次回の実践に生かしたい。

〈研究授業の実際〉

教師：4つの俳句に順位をつけてもらいました。みんなの順位を集計して結果はこうになりました。「恋ふたつ レモンはうまく 切れません」を4位にしていた人が多かったけどなんで4位だったの？

○順位付けによる視覚化

S1：何が言いたいのか分からない。

S2：「切れません」のリズムが悪い。許しがたい。なんで俳句なのに敬体なんだ。

教師：この俳句を1位にした人もいました。いいところも見つけてみて。

S3：いいところがない、難しくて全然分からない。

S4：それを考えるのがいいやって。

S3：なんでこっちが考えないかんの。

S4：考えるのが面白いんじゃないん。なんでレモンなんだろうって。

教師：1位にしていた人いたよね。どうして1位にしたの？この俳句はどんな俳句？

S5：「恋ふたつ」は彼女と彼氏の恋が二つ。レモンは固くて切りにくいから、二人の恋を表現している。

●視点の変化が早くしっかり語れていない

～中略～

教師：この恋は片思い？両思い？

S1：二つの恋が一つになって「レモン」になった。

S6：そしたら、恋一つなんじゃないの？

S7：はい。今、付き合ってる恋人同士がいて、その恋が「レモン」。その二人を別れさせたい人がいて、その人が「うまく切れません」って思っているんじゃないか。

●根拠をもって語れることができていない

教師：三角関係の俳句？

※同意した人に手を挙げさせたところ、ほぼ全員が三角関係の俳句として理解してしまった。

●教師が論点のズレを否定できていない

～中略～

S2：「レモン」の俳句の意味が分かったので、順位が少し上がった。恋を「レモン」で表現するのはいい。でも、なんで「レモン」なん？「レモン」は酸っぱいのに。

S4：甘酸っぱい恋。

S2：「レモン」は甘くない、酸っぱい。

教師：「レモン」がじっくりこない人いますか？「レモン」に代えられそうなものある？

※レモンに代えられる季語を考える活動

「りんご」「いちご」「メロン」など様々なものと比較した。

S4：「レモン」は青春。初恋のイメージを象徴している。

S1：「レモン」もそうだし、「切れません」も幼く感じる。やっぱり10代の恋だと思った。

○この発言をきっかけに、季語について考えていった

○他の季語と比較することで、季語としての「レモン」を捉え直している

～後略～

(3) 自己の変容に気づく振り返りの工夫

- 単元の前後で同じ問いを投げかけたり、自分の考えを書かせたりすることで生徒の変容を見取ることができた。また、「一番心が動いたこと・強く印象に残ったこと」など心情についての視点を与えることで、心情の変化を意識的に記述する生徒が増えてきた。
- 振り返りは一定の効果があつたものの、抽出生徒Bのように「分かった、知った」にとどまっている生徒もいる。常に心情に目を向けるよう意識づけを行うとともに、心情を書きたくなる更なる工夫が必要だと考えている。そこで次年度は、振り返りと言語活動とを関連づけて鑑賞文や創作物を他者に評価してもらう場を多く設定していく。

〈単元における生徒の実際〉

① 分析の視点

〔視点1〕「俳句」に対する捉え直し（鑑賞の視点の変化や創作に対する技術の変化）があるか

〔視点2〕「俳句」に対する捉え直し（意欲面）があるか

② 分析の対象

抽出生徒A（S女）：単元前・後共に行ったアンケートでは、俳句を作ったり、鑑賞したりすることは好きと回答している。

抽出生徒B（T男）：単元前のアンケートでは、俳句の鑑賞は好きだが、作ることは苦手と回答している。

【単元学習前の抽出生徒Aの「俳句」に対する「ものがたり」】

私にとって俳句とは…「何か難しいもの

読むのも書くのも好きですが、やっぱり難しいです。

何かに例えたり、表現の仕方が自分では思いつかないものだったり、読んでみても楽しいと同時に「難しい」も感じます。

書くのが上手な人は、表現の上手さもあるけど俳句とくやうの「季語」があるもので、季語の引き出しも増やしたいです。

「好き」と回答しているが、かなり苦手意識をもっていることが分かる

【単元学習後の抽出生徒Aの「俳句」に対する「ものがたり」】

私にとって俳句とは…「もう一つの小さな世界だと思う。」

私は、俳句作りをとても楽しむことができた。その理由は、どこまでいっても「自由」だったからだと思う。今回は「恋」というレボリはあったが、それは題材にすぎず、いくらでも連想できた。連想をするのは日常からでも、連想した先の言葉は「非日常」で言い表せないおもしろさがあった。実際に作ろうと思っ、て気付いた。私には、

「俳句」に対する捉え直しがあり、自分の言葉で「俳句」を語り直している

～中略～

りきた。俳句は自由に楽しんで良し、自由に作りあげていい。もう一つの小さな世界なんだ。そこに気付いて、私の俳句の夢は終わった。

【単元学習前の抽出生徒Bの「俳句」に対する「ものがたり」】

私にとって俳句とは…「短い意思表示」

- ・季節や時間の分かりやすさ。
- ・短い文字数。
- ・切りとる情景の狭さ。

ただ知っていること、分かっていることを羅列するのみにとどまっている

【単元学習後の抽出生徒Bの「俳句」に対する「ものがたり」】

私にとって俳句とは…「便利な文章」

文学の多くは文章で長く自分の気持ちや考えを表している。実際それぐらい長く書かないと表現できないかなと思っていました。しかし俳句というのは季節や切れ字によって短くても人の気持ちや考えが伝わってきました。
むしろ、文章で書いたものより内容が
簡潔に伝わり、情景をとっても想像できました。そして、作り手側に回っても、文章とは

ツールとしての価値にとどまっている

抽出生徒Aは、「俳句」に対する捉え直しが顕著に見られた。単元での活動を通して俳句の鑑賞、創作ともに捉え直した語りになっている。これは、意欲的に単元の学びに取り組んだことが大きいと考えている。次項で生徒の創作の変化についても分析する。

抽出生徒Bも「俳句」に対する捉え直しが少し見られるが、情意面の表出がなく、ツールとしての「俳句」を学んだことにとどまっていると感じた。単元学習によって、「俳句」の知識が身につく、表現の幅が広がるのは当たり前であり、その知識や表現をどう活用したか、使いたいと思ったかが表出されなかったのは、抽出生徒Bが学びに夢中になっていなかったからではないかと考えている。それは、単元後の振り返りだけでなく、毎時間の振り返りから見取れた。

抽出生徒 A

抽出生徒 A の振り返りには、自分の心情の変化がたくさん表出している。季語に注目して、最初はお気に入りの季語が見つからず「夏」を使っていたが、5 文字の季語を上五か下五で使おうと決めて、いろいろな季語を調べていくうちに、「おぼろ月」という季語に出合い、その中でも推敲を重ねて、納得できる俳句が完成したことが分かる。

以上の抽出生徒2名の振り返りの分析から、本単元での活動は生徒の意欲付けや「俳句」を捉え直すことに一定の効果があったと考えている。また、毎時間の振り返りや単元後の振り返り、俳句創作の変化を視覚化することは、生徒の思考を見取ることや単元の学びを分析するために大変有効であることが分かった。しかし、抽出生徒Bのようにこだわりをもって学びに参加できない生徒もいることが分かった。「遊び」を通して、そうした生徒が夢中になって学べる場を設定し、活動の中で「できない」「もっとこうしたい」と思う場面を作ることが生徒の意欲喚起や情意面の表出につながると考え、今後も研究していきたい。

抽出生徒 B

俳句の工う工天が色々な
ジャンルにも使へると思ひました。